

生活者

生活と政治をつなぐ情報紙

通信

No.387
2023.12.1

東京・生活者ネットワーク

発行 東京・生活者ネットワーク
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASK ビル4・5階
TEL.03-3200-9189 FAX.03-3200-9274
Eメール tokyo@seikatsusha.net
URL https://www.seikatsusha.me
発行責任者 山内玲子
定価 年間1000円・1部100円 郵便振替口座 00130-3-18417
毎月1回1日発行 1994年5月23日第三種郵便物認可

生活者ネットワーク3つのルール

1

議員は交代制(ローテーション)

生活者ネットワークの議員は、交代制。議員を職業化、特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を活かします。

2

議員報酬は市民の政治活動資金に

生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は、市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。

3

選挙はカンパとボランティアで

選挙は、政治に参加する入り口です。みんなでお金(カンパ)と知恵や努力(ボランティア)を出し合い、選挙を行います。

都議会ネット

■都議会第4回定例会:12月5日(火)~20日(水)。代表質問:12日、一般質問:13日・若永やす代登壇。
■2024年度各会派の予算要望提出:12月21日。

地域ネット

目黒ネット

区議・増茂しのぶ議会報告会と金継ぎ講座
12月12日(火)14:00~16:00 駒場住区センター(駒場東大前駅) / 2024年1月22日(月)10:00~12:00 自由が丘住区センター(自由が丘駅) 各回500円 03-3791-8069

中野ネット

ともに考えるなんでも相談会(毎月第2木曜日)
12月14日(木)13:00~16:00 / 1月11日・同時開催 中野・生活者ネット事務所(中野駅よりバス) 困っていること、区への提案、おしゃべりがしたいなど 03-5942-6793

東大和ネット

檻の中のライオン講演会 in 東大和
1月7日(日)13:30~16:00 桜が丘市民センター2F 集会室(玉川上水駅) 講師:椋大樹(はんどうだいき)(弁護士) 1000円、18歳以下200円 042-567-1681

葛飾ネット

なんでも相談会(毎月10日)
1月10日(水)10:00~12:00 葛飾・生活者ネット事務所(京成高砂駅) 03-5876-4757

多摩ネット

ネット40周年記念講演「私たちのめざす社会は限りなくインクルーシブ(まじりあって)」
1月14日(日)14:00~16:00 パルテノン多摩第一会議室(多摩センター駅) 講師:池田賢市(中央大学教授) 042-376-5758

調布ネット

檻の中のライオン in 調布
1月27日(土)14:00~16:30 あくろすホール(国領駅) 講師:椋大樹 1000円、学生無料 主催:実行委員会 042-487-3087

狛江ネット

檻の中のライオン in 狛江
1月28日(日)13:30~16:00 泉の森会館3階ホール(狛江駅) 講師:椋大樹 1000円、学生無料 03-3430-1302

生活者ネットワークは東京都内33の自治体にあり、都議1人、市・区議39人の議員とともにそれぞれの地域課題に取り組むと同時に、市や区をこえた「東京問題」には全体で取り組んでいます。

東京を生活のまち、安心・共生・自治のまちにするために発言を続けます。

2022年4月9日に多摩市ヘルプホールで開催された、給食の牛乳を考える市民集会



給食の牛乳を考えた市民集会

2022年9月開催の2回目の「みんなが決めたい牛乳飲用の選択制」の選択制

多摩・生活者ネットワーク市議会議員 岸田めぐみ

2022年9月開催の2回目の「みんなが決めたい牛乳飲用の選択制」の選択制

2022年9月開催の2回目の「みんなが決めたい牛乳飲用の選択制」の選択制

2022年9月開催の2回目の「みんなが決めたい牛乳飲用の選択制」の選択制

多摩市発

学校給食の牛乳飲用が選択制に 市民の声が行政を動かしたびん牛乳への移行に次ぐ選択制導入

11万5431本。これは多摩市教育委員会が示した、2020年6月から2021年1月までの市立小中学校給食における未開封牛乳廃棄数です。子ども・保護者がアレルギー診断書を提出すれば停止できますが、牛乳は毎日提供が基本です。体質に合わない、苦手と感じる児童生徒の廃棄を見込んだまま提供し続けることは、食品ロス観点からも、学校でSDGsを学ぶ子どもたちからも理解が得られないと、教育委員会へ陳情が出されました。

子どもの成長に欠かせないカルシウムは摂取しにくく、学校給食における牛乳の飲用は重要な役割を担っています。多摩市は気候非常事態宣言を発表したこともあり、2020年より紙パックから、繰り返し利用でき環境に優しいリターナブルびんに切り替わりました。きつかけは牛乳を供給している「東京学乳協議会」から廃棄物処理法に基づき、20年度より飲み残った紙パック回収は行わないと告げられたことでした。限られた教育時間と場所での飲み残った紙パックを洗い、乾燥させることの難しさやアレルギーを持つ子どもに飛沫が付着する危険性、使い捨てプラスチックであるストローが発生する等の環境面での課題からびんに戻すことに決め、独自に納入業者を探し、保護者から給食費値上げへの理解も得て実現されました。

びん牛乳実現後も、給食牛乳の8%が廃棄 しかし、アレルギーにより提供停止や嗜好の観点、アレルギー診断書

取得にかかる医療費負担、食育、さらには安心して通える学校等について議論が深まり、挙手全員により採択されました。そして本年9月より学校給食における飲用牛乳の必要性を理解した上で、診断書の提出が無くても飲用牛乳停止届の提出により停止できるようにしました。停止理由は乳糖不耐症やお腹がゆるくなりやすいが最も多く、次に嫌いだからが続いています。

以前からアレルギー理由以外の診断書でも牛乳停止をしていました。その周知が十分ではなかったこと、また診断書を得るために病気で受診をすることへのハードルの高さを感ずります。実際に子どもや保護者からは助かったという声を聞いています。

7人に1人の子どもが貧困状態にあると言われる中、多摩市教育委員会は、コロナ禍の臨時休校時には給食の代替食を配布しました。また、家庭で不足しがちな栄養素を摂取できるよう献立を作成しており、子どもの成長に学校給食が不可欠との認識です。

体をつくる最も大切な時期の食事を預かる学校給食ですが、だからこそ、子どもたちが納得して摂取することが大切です。友だちと楽しく食べながらSDGsを自分たちに引き寄せる、そんなすてきな給食時間であってほしいものです。

この状況の中で虐殺100年をむかえたからこそ、市民の多くの立ち上がりがあったのだと思う。私たちは墨田区八広に追悼碑を建てたが、ここを訪ねてくれた若い人たちで、100周年の追悼式と一緒に運営してくれる「百年(ペンニョン)」という集まりができた。写真は、追悼式での証言朗読シーンである。ペンニョンのあるメンバーは、「朝鮮人虐殺事件に関心を持ったきっかけは、都知事の追悼辞送付とりやめだった」と言う。私たちは、ヘイトクライムの恐怖など、誰もが感じないで暮らせる日本社会をつくりたい。追悼事業を継承しつつ、次の100年に踏み出す、そのスタートを切ったばかりである。



矢野恭子 一般社団法人 ほうせんか



朝鮮人・中国人虐殺事件から100年の今年、追悼式で証言を朗読する「百年(ペンニョン)」。今年も彼らの呼びかけで、「虐殺」を知った若者も多く参加した。墨田区八広の荒川河川敷で、2023年9月2日

100年 朝鮮人・中国人虐殺から 関東大震災下の

今年も年初から、虐殺事件を学ぶ学習会などが全国各地で多様な団体によって取り組まれた。埼玉県・寄居では、具學永さんの追悼式が初めて広く呼びかけられた。香川県の行商団が自警団に殺された千葉県の福田・田中村事件は、地元で事件を考える新しい活動が始まった。NHK・TBS・日本テレビ、共同通信、『毎日新聞』『東京新聞』『朝日新聞』等は、これまで取材を重ねてきた記者たちが、多様な切り口で虐殺諸事件を伝えた。

この虐殺事件への関心は、現代的な危機感に裏打ちされている。2000年代に入ってからヘイトスピーチの蔓延は、朝鮮総連中央本部への発砲、ウトロ地区やコリア国際学園への放火など、ヘイトクライム(特定の属性に対する差別を基にした犯罪)をエスカレートさせた。「殺す」などの脅迫は、枚挙にいとまがない。

この状況を後押ししてきたのが、公人の「朝鮮人虐殺を受け止めない形での否定」だった。小池東京都知事が、朝鮮人犠牲者追悼式典に追悼辞を寄せなくなって7年目となった。

国会では今年2人の議員が朝鮮人・中国人虐殺事件の政府の責任を問うたが、答弁は「政府内に事実関係を把握できる記録が見当たらない」という従来の見解に終始し、松野官房長官も8月末に同じ発言を繰り返した。

東日本大震災でも熊本地震でも、「外国人による犯罪」デマが流布し、ヘイトクライム再発防止が喫緊の課題にも関わらず、である。



Information

「ヤジと民主主義」劇場拡大版 公開

12月9日(土)～ボレボレ東中野(東中野駅) 小さな声は、何を暴いたのか!? 「メディア」の眼前で起こった「市民」「権力」「政治」を巻き込んだ、あの「ヤジ排除問題」に迫る緊迫の1460日。製作:HBC北海道放送 <https://yajimin.jp/>

個展 石川真生 私に何が出来るか

開催中～12月24日(日) 11:00～19:00 (入場は18:30まで) 休館:月曜日 東京オペラシティアートギャラリー(初台駅) 写真家・石川真生の初期からの主要な作品、2014年から取り組んでいる「大琉球写真絵巻」の新作を中心に展示 一般1400円/大・高生800円/中学生以下無料 公益財団法人東京オペラシティアート文化財団 050-5541-8600

熟議がつくった平和憲法の舞台裏 立役者・鈴木義男に迫る

12月16日(土) 14:00～16:00 日野市新町交流センター(日野駅) /オンライン参加併用 講師:仁昌寺正一、雲然祥子 500円 共催:認定NPO法人日野・市民自治研究所 /NPO法人多摩住民自治研究所 <https://hinojichiken.wixsite.com/info/entry> TEL・FAX042-589-2106 (月火木金10:00～17:00)

都議会REPORT

都議会決算委員会報告

東京・生活者ネットワーク都議会議員
岩永やす代 [国分寺市・国立市]



都議会では10月から12月にかけて決算審議が行われます。委員が質疑から報告します。

求もよくありますが、これまで監査が実施される例はほとんどありませんでした。そこで過去5年間の状況を確認したところ、住民監査請求74件で、うち監査を実施したものの4件、勧告を行ったもの1件でした。

小池都政の二丁目一番地であるはずの情報公開ですが、開示された文書は、今でも黒塗りの「のり弁開示」(現在は白塗りも)だと、市民から指摘を受けています。一部開示されたものも、1頁全て真っ黒で内容が全く分からないものも多いのが現状です。都は原則開示の徹底と答弁しますが、公文書は都民共有の財産です。道路など公共事業の計画に関する情報など、条例にも書かれている「透明な都政の推進と都民による都政への参加」のため、さらに開示を広げることを求めました。

この問題について、都議会で、行政側の契約手続きの瑕疵を再三指摘する会派があり、この団体に大きな瑕疵があるかのような言説が回り、夜の街で10代の女性たちへの、都にとっても重要な支援をしている団体への悪質な妨害が繰り返され、団体は、この事業から撤退しました。「トー横」に集まる若者たちが話題になっていますが、解決の方向は見えません。政治的な圧力がとんでもないところに出てしまいい、大変残念です。

住民監査請求は、住民が監査委員に対し、執行機関や職員による違法もしくは不当な公金の支出などについて、監査及び必要な措置を求める制度で、市民が行政をチェックするうえで重要な制度です。無駄な公共事業に関する請

戦争や気候危機に直面し、食糧の確保が課題となっています。国内自給率の向上やフードマイレージの視点からも、都市の農地を守り、新鮮な地場野菜を地域で食べ支える地産地消を進めていくときです。都内の新規就農者の状況、都市農業と学校給食の連携について質問しました。

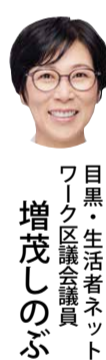
昨年年度新規就農者は77人増と、都市農業に未来の希望を感じます。若者や退職者など年齢も様々で、就農した農業者が継続できる支援を要望。地場産野菜の学校給食への導入では、栄養職員への研修や供給に係る経費補助などがあります。都市農業と学校給食との連携を都が積極的に後押ししていくよう求めました。

学校給食に地場野菜を



決算委員会全質質疑 11月13日

新・目黒清掃工場が稼働
プラスチックはもう、使わない! から、始めよう!



目黒・生活者ネットワーク区議会議員
増茂しのぶ

新しくなった目黒清掃工場。数年をかけた建て替え工事が完了し、2022年10月試行運転しています。新・目黒清掃工場の「操業協定」には、地域住民の意見が活かされています。協定書の相手は「目黒区及び地域住民代表」であり、国の目標や都の「ゼロエミッション東京戦略」との整合性に留意することも書き込まれました。



新・目黒清掃工場のごみパノニカに大量に含まれる、紙や段ボールプラスチック類

かつての建設反対運動から生まれた目黒のリサイクルシステム

プラスチックを減らすために

新・清掃工場の焼却炉は、旧来と同じ300トンの2炉ですが、施設自体は小型化され、壁面・屋上の緑化、建物のデザインや高さで圧迫感を軽減したほか、太陽光パネルの設置、近隣の臭気や騒音の軽減など、周辺環境に配慮し、生まれ変わりました。焼却時に発生するエネルギー回収では、機能を向上したうえで工場内で使用、余ったエネルギーは売電を行い、排ガスなどは有害物質の法規制値よりさらに厳しい「目黒清掃工場独自基準値」とし、基準以下で排出されています。

住民が参画する操業協定が実現している背景には、遡る1991年竣工の、旧目黒清掃工場建設計画への住民による反発がありました。旧清掃工場の必要性を「家庭ごみが増えているため」との上意下達ぶりの区説明に、周辺住民が反論。家庭ごみは減らせることを身をもって立証した経緯があったのです。当時の住人による自発的な動き、すなわち「ビン・缶紙類の分別収集活動」は、のちの「目黒のリサイクルシステム」のモデルともなりました。

目黒区では、プラスチック資源循環法に則り、今年7月から製品プラスチックも含む一括回収を始めました。国は企業に対し、使い捨てプラスチックの削減義務、環境配慮設計、自主回収の促進などを課し、企業はプラスチックに代わる竹や紙などの自然素材や生分解性素材を使うなどが求められています。便利で安価なプラスチックですが、焼却によるCO₂増加や自然や生態系への影響を考えると利用は限界です。製品の環境負荷に対する責任の厳格化と徹底は当然ですが、私たちができることも。例えばマイボトル・マイバッグを徹底し、使い捨てプラスチック製力トラーリ類を貰わない、拡大生産者責任を実施している企業の製品や環境配慮製品を選ぶなど、大量消費と廃棄のサイクルから脱すること。次世代への責任として、ともに、すぐにも取り組んでいきましょう。



新・目黒清掃工場

活動に汗を流してきた周辺住民、環境活動団体が構成員として参画。今回の建て替え計画においても、排ガス規制に関

■訂正とお詫び No.385 (10月号) 2面「都政NOW」本文9行～10行「15歳から18歳までの」を「15歳から20歳(状況によっては22歳)までの」と訂正します。確認不足をお詫びします。

編集後記 / 11月18日、「東海第二原発の再稼働を許さない 首都圏大集会」が開催された。小出裕章さんは、「嘘で固められた原子力」と題して講演。福島原発被害東京訴訟原告で、いわき市から避難した鴨下美和さんは、原発事故によって強いられている困難な生活の実情を訴え、国の情報のごまかしを明らかにした。前東海村村長の村上達也さん、各地で活動している団体が、稼働から45年の日本原電東海第二原発(茨城県)の再稼働を止めよう、原発はいらないとアピール。集会後、参加者700人は、神保町をデモ行進した。(上坂)

都政NOW
区市とつなぐ

「生活者通信」の購読者を募集 ●定価:年間1000円

【お申し込み方法】郵便振替をご利用ください。(手数料ご負担ください)。振り込みが確認され次第、「生活者通信」をお届けします。お名前・ご住所・〒番号・電話番号・開始月を明記、口座番号 00130-3-18417 加入者名「東京・生活者ネットワーク」